

発行
2016年
1月
1日

み と し ん ぶ ん
未杜新聞

地域通貨：未杜

59
号



あなたの参画が多様性を認め合うコミュニティづくりの輪へ
あなたの余剰を分かち合う優しさが丹波の自然をまもる輪へ
あなたのすてきな能力の提供がコミュニティの自立と共生へ

人権・環境・共生



新年おめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。

発行所：NPO 法人丹波まちづくりプロジェクト事務局：〒669-3571 丹波市氷上町新郷 1574

* 編集人：赤井俊子 Tel/Fax0795-82-0065 E-mail：syunko27@yahoo.co.jp URL：<http://mito.tamba.tv>

* 新入会員（敬称略）紹介 今年10月以降に入会された方です

○梅垣晃子（氷上町）○北川幸男（柏原町）○神崎みき子（山南町）

未杜に思う（未社会員の東野忠満さん）・・・執筆については3面を参照下さい
11月未杜カフェは小雨の肌寒い日だった。明治のトンネルに向かって、山茶花の咲くならかな坂道を落ち葉の絨毯を踏みつつ進んで行く。眼下には平成のトンネルに続く舗装された道路が見える。

この風情ある道は昭和のトンネルが開通する昭和42年までは峠を越える唯一の道であった。今では想像する由もないが当時は行き交う人で賑わっていたことだろう。

未社会員であり柏原ふるさとガイドクラブの瓢さんの話を聞きながらふと思う。

平成や昭和のトンネルは明治のトンネルに比べれば道幅は広いし勾配もゆるく非常に楽に通れる。しかし「もし災害か何かの理由で平成や昭和のトンネルが通れなくなれば、またこの道を通ることになるのだろうか」と。

そして「この旧道は<円>という天下の回りものであるお金が危機的状態になった時に助けとなる地域通貨のようなものかもしれない」とも思う。

今私たちが使っているお金<円>も支払いさえすれば何でも手に入る。買えないものはなく場合によっては人の心も、命さえも買うことができる。

こんな便利なく円>ではあるが致命的な欠陥がある。通貨は生物に例えれば体内を流れる血液のようなものだ。だが不況になればスムーズに流れなくなる。一所に止まって動かない。生物なら瀕死の状態だ。政府が低金利策や量的緩和など景気対策を行っても良くならない。水は低いほうへ流れるが<円>は高いほうへ流れる。金利の高いほうへ、多くあるほうへ行って低い方（庶民）にはなかなか回ってこない。必要なところに行かない。そこで地域通貨（補助通貨）の登場となる。地域通貨は金利がないどころか場合によってはマイナス金利の場合さえある。そうなる溜めればマイナスが増えるので使わざるを得ない。つまり流れが早くなる。「サラサラの血液」になる。「金は天下の回りもの」「宵越しの金は持たねえ」となり巷の景気はよくなり民の暮らしは楽になるのである。

農地に関する課題について話し合いました

予告 <1月未杜カフェ>

○ごみ処理場見学

日時：1月20日（水）13時30分集合
場所：春日町野上野540
丹波市クリーンセンター

<2月未杜カフェ>

○フィンガーレス手袋を編む

日時：2月17日13時30分
場所：氷上住民センター

持参する物

かぎ針4号か5号、中細毛糸1玉



<11月未杜カフェ>

明治・昭和・平成の鐘が坂3トンネルを探訪



<3月未杜カフェ>

○未杜決算パーティ

日時：3月26日（土）12時30分
場所：丹波の森公苑 多目的ルーム

- 1：地域通貨：未杜 決算パーティ
未杜大賞の発表など
- 2：未杜マーケットの開店
- 3：パネルディスカッション
農業後継者問題等について
人・農地プランの実践者や行政の方と
参加者が共にいろいろな問題提起を
して解決策考えます。
- 4：ティータイム
おいしい飲み物や
お菓子が盛りだくさん！
未杜仲間は多くてもまだよく知らな
メンバーもかなりあるようです。
未杜カフェに参加して多くの未杜仲
間と仲良くなりましょう！

<12月未杜カフェ>

死と向き合う（やさしい死生学）

お話とポットラックパーティ



報告 <10月未杜カフェ>

第4回オープンカフェ「LETS」報告

*形式：輪読会 読本「地域通貨」ミネルヴァ書房

*編著者：西部忠（北海道大学経済学部研究科教授）

*会場で出た質問等を「○」で、西部先生のコメントを「◎」で表します。

○ {地域通貨は互酬性を伴った交換、すなわち「互酬的交換」を目指す経済的メディアであり競争的かつ協力的なコミュニティ市場を形成するものである。} の「競争的」という言葉について、未杜の場合は「競争」をあまり感じない。それは流通が少ないためなのか、あるいは同じ品物が多く（例えば、農産物）取り合いになることが少ないため実感がないのだろうか。

◎ここで言いたいことは、さらにP14-15にかけて詳しく書いています。石鹼の喩えで、競争と協力の二面を持つ地域通貨の特性を説明しようとしているので、見てください。「未杜」のような比較的規模の小さなグループで行われる地域通貨では、「協力」や「互酬」の側面がほとんどで、「競争」の側面は少ないと言えるでしょう。しかし、地域通貨でもスイスのWIRやイギリスのBristol poundなどのように規模が大きくなり、商店・企業が参加すれば、良い意味での競争は生まれます。地域通貨が互酬や協力を促すとしても、それは必ずしも質の向上を促すような競争を排除するものではないということです。小さな地域通貨の場合でも、おいしい農産物が品切れになったり、親切なボランティアに人気集中したりすることはないのでしょうか。

○「両者の関係がそこで使われる貨幣メディアに依存して決まるのであれば、通常の家通貨に関してはそうであっても、地域通貨の場合もそうであるとは言えないからだ」この部分を分かりやすく説明してほしい。

◎国家通貨の場合は、希少な貨幣を求めて市場における競争だけが促進されるのに対し、地域通貨の場合には、貨幣は必ずしも希少ではないので、競争だけでなく協力が同時に促進されるという意味です。どうやって競争と協力が両立するかは、その後の部分で説明しています。

○提案として「地域通貨党」を造ろうという声が出ました。

◎これはいままで思いつきませんでした。国会か地方議会かどちらを対象とするものなのでしょうか。どんな提言をするのでしょうか。もっと詳しい内容を聞きたいですね。

<一面の枠内執筆者の変更について>

これまで未杜新聞1面枠内の文章はNPO法人丹波まちづくりプロジェクト理事長が執筆してきました。新聞発行をスタートした2001年から2012年までは理事長の赤井俊子が「未杜子」の名で執筆してきました。

2013年の理事長交代により神戸大学名誉教授の小西康生先生にお世話になり「未杜男」として2015年秋号まで執筆していただきました。

今回事務局会議の結果、理事長執筆という枠を取り払い未杜会員が自由に執筆する欄とすることにしました。また原稿は実名で掲載させていただきます。積極的な執筆をお願いします。

会員 紹介

今季号は青垣町の瓢 芳夫さんです。

未杜のみなさん、こんにちは。平成24年6月に会員に入れてもらったものの、あまり活動に参加できていない私です。それでも、赤井さんからのご依頼を受けて、いくつかの活動でみなさんとご一緒しました。



- ①「丹波の見どころ、食べどころ」のテーマでミニ講演（H24. 11）
- ②青垣町のまちづくり視察ツアーのご案内役（H26. 7）
- ③芦屋市のみなさんとの交流会で進行役（H26. 10）
- ④鐘ヶ坂トンネル視察のご案内役（H27. 10）

私は、もともと神戸の人間ですが、20数年前、柏原に単身赴任したのが事の始まりです。2年間の勤務のあと神戸に戻るころには、すっかり丹波ファンになっていました。

神戸に戻った数年後には、青垣町の空き農家を買って求め、毎土日、神戸から通い、週末の田舎暮らしを楽しむようになりました。そして今から10年ほど前、退職を機に家を新築し、生活の本拠が青垣町になりました。

私の暮らしを短い文章で表すと、こんな感じです。

「青垣に住み、青垣と柏原で少しだけ働き、丹波中で遊び、ときどき神戸です」と。

そんな暮らしの中に、私にとっての未杜があります。Iターン者として、丹波の地域特性に魅力を

感じ、未杜がめざすまちづくり活動に参加させてもらうようになりました。

都市から丹波にたくさんの人が移住しています。みなさんの共通した丹波評価は、①自然が豊か、②おいしい食材がたくさん、③人情味あふれる人々、④都市部から近い、...

ただ、地域のみなさんは、これらは当たり前すぎて、宝物とは思っていません。Iターン者と地域のみなさんが一緒になって地域づくりを進めたいものです。

みなさん、今後ともよろしくお願ひします。

<未杜ひばりの活動>

丹波まちづくりプロジェクトの中で地域通貨：未杜を使って活発に活動を続けられているサークルが「未杜ひばり」です。練習を重ね、高齢者や支援学校を訪問して一緒に歌を楽しんでおられます。12月にはは2015年の最後として春日町の「はるべの郷」でサークルの忘年会をしました。（アコーディオンを弾かれているのが久須美先生です）

